

デバイスレス・ワンタイムパスワード

Pass Logic エンタープライズ版

アップデート概要とリリースノート（エンタープライズ版 Ver.5.1.0）

2024/02/01



新搭載
ログイン遮断機能を見る

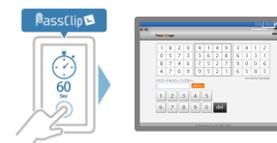


1. リリースノート
2. ピックアップ

マトリックス専用から「多要素認証プラットフォーム」へ高機能化へ

- 1997** 「乱数表から抜き出してワンタイムパスワードを生成する」システム PassLogic認証方式を発明。
- 2000** PassLogic認証方式が米国特許 (US6141751) を取得。会社設立。
- 
- 2000** | **2006** パスロジック方式の技術ライセンスを日本企業へ提供。
- 2007** PassLogicのパッケージ販売を開始。SSL-VPN連携機能を実装。
- 2008** Webサービス組み込み用APIを強化。スマートデバイスにいち早く対応
- 2009** Webアプリとの連携機能 (リバースプロキシ & SSO) を実装。LDAPからのユーザーID同期を実装。
- 2010** セキュリティポリシーや運用機能、連携機能など基本機能を大幅に拡充。英語対応し海外展開が可能に。マルチテナント版リリース。
- 2011** クラウドアプリ連携 (SAML) に対応。スマートデバイス最適化。
- 2012** マルチテナント版機能拡充しサービスプロバイダのデファクト採用の礎に。(ソフトバンク/富士通/KDDI/NEC/IIJなど)
- 70万ID**
- 2013** 運用の自動化を実現する機能拡充。
- 80万ID**
- 2014** 小規模から大規模要件まで対応可能なエンタープライズ版をリリース。
- 90万ID**
- 
- 2015** エンタープライズ版の機能拡充。主要連携製品とメーカー間の検証を完了。ソフトウェアトークン提供開始。
- 100万ID**
- 
- 2016** 利用者視点の機能強化を中心に、計5回のアップデート、約70の機能追加・改善を実施。

- 2017** IPアドレス制限、Windowsログオン、PKIに対応のメジャーバージョンv3.0リリース。ハードウェアトークン対応、API提供開始のv3.1リリース。
- 110万ID**
- 2019** エンタープライズ版にマルチテナント機能提供開始。
- 2020** PassLogicクラウド版提供開始。
- 130万ID**
- 2021** ログインプロテクト機能リリース。
- 2022** レジリエントサービスリリース。
- 2023** Windowsシームレスサインオン機能リリース。
- 
- 2024** PassLogic認証 (マトリックス方式) にログインプロテクトを連携



サポートについて

PassLogic エンタープライズ版Ver.4以降のサポートにつきましては、以下のように変更いたします。

- ・ OS : REHLサポート期間 (Maintenance Support2の終了日) までをPassLogicの通常のサポート期間とします。
- ・ OSのサポート期間からMAX 3年間で延長サポート期間とします。

通常サポート :

- ・ バグ修正を含むアップデート、対応策、またはパッチを提供します。
- ・ 報告された問題を修正するには、原則ソフトウェア・アップデートが必要になります。

延長サポート :

- ・ 契約更新や ID 追加時にライセンスファイルの提供をいたします。
- ・ お問合せ対応にあたり、事象の再現確認が必要となる場合には、パスロジ社が保有するRHELの最終リリースバージョンを使用します。

※ お客様環境で使用されている RHEL にバージョンを合わせた再現調査はできないことご了承ください。

※ RHEL 7 以降の OS が対象となります。RHEL 6 以前の OS は対象外となりますのでご注意ください。

※ 延長サポートは、RHEL のサポート終了後 3 年間で上限として提供いたします。

- ・ 機能追加や不具合/脆弱性を修正するパッチは提供されません。

対象バージョン	通常サポート	延長サポート
PassLogic エンタープライズ版 Ver.5.0.0~5.1.0 (RHEL8)	2029年5月31日	2032年5月31日
PassLogic エンタープライズ版 Ver.4.3.0~4.3.2 (RHEL8)	2029年5月31日	2032年5月31日
PassLogic エンタープライズ版 Ver.4.0.0~4.2.0 (RHEL7)	2024年6月30日	2027年6月30日

(PassLogic エンタープライズ版Ver. 3 以前につきましては、変更ありません。)

リリースノート

【新機能】

- スマートフォンアプリで1分間だけログインを許可する「ログインプロテクト」がPassLogic認証（マトリックス方式）で利用可能になり、多要素認証の選択肢が広がりました。 pickup

【機能の拡張・改善】

- Windows OS認証強化機能「PassLogic for Windows Desktop」で、PassLogicによる認証をスキップし、通常のWindowsサインインを使用するユーザーを指定できるようになりました。緊急時のリカバリなどへの対応にご利用いただけます。 pickup
- アクセスコントロールにおいて、業務システムの割り当てに設定可能なグループの数を大幅に増加しました。 pickup
- ユーザーIDおよびドメイン名に使用できる文字数の上限が拡張できるようになりました。 pickup
- API連携において、ユーザーへの通知メール作成・送信用APIの提供を開始しました。 pickup
- 管理ツールのユーザー一覧ページにおいて、一括処理実行後に表示される画面を、直前に表示していたページに変更しました。
- ユーザーのパスワード再発行を行った際に、自動的にアカウントのロックも解除されるようになりました。
- アカウントロックに設定した期間が経過すると、ユーザー一覧のロック項目表示が自動的にリセットされるようになりました。ただし、ロックユーザー一覧にはロック期間経過後のユーザーも表示されます。

【仕様変更】

- API連携において、使用可能なAPIを制御できるようになりました。初期値は使用可能なAPIが限定されています。
- 一部のHTTPリクエストをGETメソッドからPOSTメソッドへ変更しました。また、一部のHTTPリクエストからクエリストリングを削除しました。



【不具合修正】

- リバースプロキシの設定で、ゲートウェイサーバと認証サーバ間、認証サーバとアプリケーションサーバ間がともにHTTP接続である場合に、アプリケーションサーバに設定したCookieのSecure属性が付加されない不具合を修正しました。
- SAML証明書登録でパスロジックがサポートしていない形式のファイル（pfx等）を秘密鍵に登録すると、以降秘密鍵が登録できなくなる不具合を修正しました。
- ユーザー入力画面でセッションタイムアウトした場合に、その後ログインしても、正常に画面遷移が行われれないなど、後続の動作に支障がでる問題を修正しました。
- リバースプロキシの設定で、アプリケーションの名称を変更すると、シングルサインオンのアプリケーションリストに反映されない不具合を修正しました。
- PassLogicの設定ファイルglobal_settings.phpの特定の箇所に余分な改行コードがある場合、RADIUS認証ができなくなる不具合を修正しました。
- メンテナンスツールで、パターン有効期限切れ警告が表示されない不具合を修正しました。
- PassClip認証でActive Directory連携での初回ログイン時に、特定の条件下において、QRコードが正しく表示されない不具合を修正しました。
- PassLogic認証（マトリックス方式）のパスワード変更時において、現在のパスワード再確認用の乱数表にポリシー設定が反映されない不具合を修正しました。
- RADIUS認証時のログインプロテクト未解除エラーのログが出力されない不具合を修正しました。
- その他軽微な不具合修正を行いました。



ピックアップ

PassLogic認証にログインプロテクトを連携

pickup

＼新機能／ログイン遮断機能が利用可能に！

スマートフォンアプリで1分間だけログインを許可する「**ログインプロテクト**」がPassLogic認証（マトリックス方式）で利用可能になり、多要素認証の選択肢が広がりました。

ログイン
プロテクト中は
ログイン不可！



所有物認証

+



知識認証

多要素認証

製品紹介資料/
ダウンロードする

Windows OS認証にも
適用可能！

スマートフォンアプリ「PassClip L」をタップして、ログインプロテクトを解除することで、1分間だけログインを受け付ける状態になります。ログインプロテクト解除中の1分間以外は、正解のワンタイムパスワードを入力しても、**ログインが不可能です**。「ログインプロテクト」は所有物認証であり、PassLogic認証（マトリックス方式）に組み合わせて、多要素認証を成立させる新しい要素として活躍します。

PassLogic for Windows DesktopでWindowsサインインのユーザーが指定可能に

pickup

＼機能の拡張・改善／

Windows OS認証強化機能「PassLogic for Windows Desktop」のサインインにおいて、PassLogic認証から、通常のWindowsサインイン（パスワード）に変更するユーザーを指定できるようになりました。

PassLogicによるWindowsサインイン



特定の
ユーザー名を入力



通常のWindowsサインイン



特定の
管理者に
限定

緊急時のリカバリ対応における「特定の管理者はPassLogicの認証の対象外としたい」などのニーズに対して、柔軟な設定が可能となりました。

なお、PassLogic for Windows Desktop 3.1.0の利用には、PassLogic Ent V5.1.0以降が必要です。

アクセスコントロールで設定可能なグループの数が大幅に増加

pickup

＼機能の拡張・改善／

アクセスコントロールにおいて、業務システムの割り当てに設定可能なグループの数が大幅に増加しました。組織や役職ごとの管理や、プロジェクトごとなど組織の実態に合わせた詳細なアクセスコントロールが可能になりました。

ユーザーに設定できるグループの数



5 個まで



アップデート

975個以上

システムに設定できるグループの数



10個まで



アップデート

無制限！

これまで、ユーザーに紐づけるグループ数は最大5個でしたが、アップデートで少なくとも975個の登録が可能になりました。

同様に、連携する業務システムへのアクセスに設定できるグループの数は最大10個でしたが、制約がなくなりました。

ユーザーID・ドメイン名に使用できる文字数の上限が拡張可能に

pickup

＼機能の拡張・改善／

これまでユーザーIDは最大30文字、ドメイン名は最大20文字でしたが、それぞれ最大64文字まで拡張できるようになりました。PassLogicスタンダード版など他のシステムからのユーザー情報移行がスムーズになりました。

ユーザーIDの文字数



30文字まで



アップデート

64文字まで

ドメインの文字数



20文字まで



アップデート

64文字まで

以前のバージョンでは、ユーザーIDに使用できる文字数は最大30文字、ドメイン名は最大20文字でしたが、アップデートにより、ともに最大64文字まで拡張することができるようになりました。設定に必要なファイルを編集することで、1～64までの任意の最大文字数を設定可能です。組織のご状況に合わせてご活用ください。

ユーザーへの通知メール作成・送信用APIの提供を開始

pickup

＼機能の拡張・改善／

ユーザーへの通知メール作成・送信用APIの提供を開始いたしました。
事業者様独自の顧客向け管理画面を開発されている場合でも、API連携により「通知メール」を自動作成し、効率的に送信することが可能です。



新たに開発されたAPIでは、フォーマットや件名などの「メール情報」と、ユーザーID、ドメイン名、テナント名などの「ユーザー情報」から、初回ログインに必要な情報やパターン変更に関する情報などの「通知メール」を自動作成し、効率的に送信することが可能です。なお、APIの提供は基本的に有償オプションサービスとなります。API連携を希望される事業者の方は、お問い合わせいただければ幸いです。